

カワイイで繋^{つな}がる世界

[テーマ③私の異文化交流体験記]

神奈川県 横浜共立学園高等学校 2年

岡村 英凛

「ここに行きたい」

2年前の冬、友人と遊んだ帰り道横浜駅で突然声を掛けられた。振り返って目に映ったのはヒジャブを身に着けたムスリムの女性。少々身構えてしまったが見せられた画面に映っていたのは偶然私の最寄り駅。自分が中学1年生で初めて横浜駅を使った日、乗り換え経路で迷い誰にも聞けず駅構内を1時間ほどさまよったことが思い出され、放っておくことなどできなかった。口頭で説明するのは難しいためついていき案内すべきだろう。けれど見知らぬ外国人と30分ほどの電車をやり過ごせるのだろうか…と一抹の不安を抱きつつ、気付けば「一緒に行こう」と声を掛けていた。

歩く道すがらまずは自己紹介。彼女は介護職の研修留学のためインドネシアから日本に来ていたらしく、たどたどしいながらも日本語を話し名前を名乗ってくれた。しかし私には「インナッ」のような曖昧なカタカナにしか聞こえず2、3度聞き返してもはっきりとは聞きとれず「イ、インナ？」と自信なさげな返事しかできなかった。すると彼女はスマートフォンのテキストを使い「Indah, インダ」と打ち込み見せてくれ、そこでようやく自信を持って彼女の名を口にすることができた。

名前を呼び合う。たったそれだけのことなのに言語の異なる私たちの間では大変な行程になってしまう。それを実感し心が折れそうになったとき、彼女がカワイイと口にした。視線の先は私のバッグに付いた人気アニメのキーホルダー。共通の話題を見つけ話が盛り上がる中

で、「カワイイ」はインドネシア語でなんと言うのか尋ねてみた。すると彼女は『cantik』があるけど『kawaii』でも通じるよ」と教えてくれた。私たち女子中高生が息をするように口にするカワイイが外国に通じるのか?! 大変な衝撃だ!! 後から調べて分かったことだが「kawaii」という言葉は21世紀に入って最も広まった日本語とも言われるほど世界各国で共通語として使われているらしい。その上彼女の住むインドネシアは「kawaii」が多く使われる国ランキングの10位にランクインを果たしていた。異なる言語のはずなのに気持ちが伝わるのがこんなにうれしいことなんだ、とその時初めて実感することができた。

それから私たちは時々翻訳ツールに頼りつつ決してスムーズとは言えないながらも楽しく会話を重ねていった。それこそ30分の電車もあつという間とを感じるくらいに。目的の駅に到着するとLINEを交換し記念に数枚写真を撮って別れたが、私たちの連絡は2年たった今でも続いている。互いの誕生日には祝いのメッセージを送ったり、突然「今日は何をした?」と聞かれたりする、友達と繰り広げるようななんてことない普通の会話。けれど少しだけ普通と違うのは言語である。トーク画面をさかのぼると日本語とインドネシア語はもちろん、翻訳しても伝わらない時にクッションとして使う英語がごちゃ混ぜで流れてくる。どちらがどの言語を使うかも決まっておらず、彼女は日本語に、私はインドネシア語に翻訳して送ることだってざらにあった。

異なる言語間の交流はさまざまな課題を持つ。単に言葉の壁と呼ばれるものだけでなく、文化や価値観など言語の基礎になるもの、その少しずつの差異が大きな語弊や誤解を招くことにもなりかねない。また、直接翻訳することのできない言葉だって存在する。それでも、恐れて身構えることなく、相手の言語を尊重しつつ“コミュニケーションをとりたい”という姿勢を見せることができれば、きっと言語の障

害なんてものは軽く乗り越えてしまえるのではないだろうか。

一期一会、あの瞬間あの場にいなかったら私たちが言葉を交わすことはなかった。そして互いが互いに「伝えたい」と思わなければ仲を深めることもなく終わっていただろう。異文化交流に模範解答なんてない。3言語が行き来する私たちのメッセージだって、一つの交流の形であると思う。言語の違いを乗り越えて交流することで私たちは、さらに深い理解や信頼関係を築くことが可能になるのではないだろうか。

